

積善

題字 第241世天台座主 玄深師(恵亮院蔵)

餘慶寺だより

編集・発行 上寺山餘慶寺

〒701-4232 岡山県瀬戸内市邑久町北島 1187
納経所 TEL 086-942-0186 FAX 086-942-0187
恵亮院 TEL/FAX 086-942-3788
本乗院 TEL 086-942-2791 FAX 086-239-5823
吉祥院 TEL/FAX 086-942-3789
定光院 TEL 086-942-2356 FAX 086-944-1490
明王院 TEL 086-943-1030 FAX 086-943-1069
圓乗院 TEL 086-942-2356
ホームページアドレス <https://yokeiji.or.jp/>

一口法話

『功の多少を計り、彼の来処を量る』

これは食事作法の中の五観の第一項にある文句です。『功』とは食べ物を作った人の働きや労力で、先ずその人々の功(労苦)を考えようということです。そして、その食べ物はどういう道筋を経て私たちの目の前に運ばれて来たかその縁に感謝しようというのが『彼の来処を量る』ということなのです。

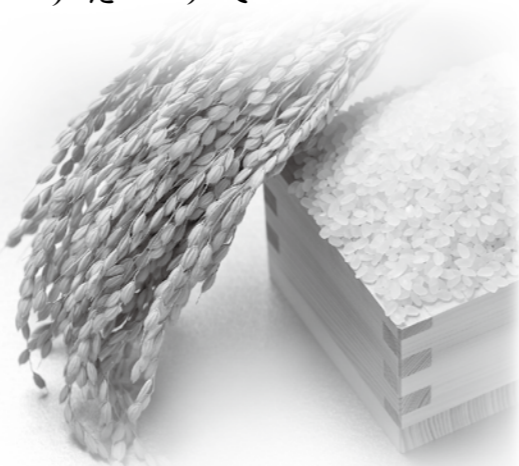
例えばお米の場合も品種から稲となり米となるまでにとっても長い時間を要しますが、その米を育てた人々への感謝がまず食事をいただくときに必要な事でしょう。「イタダキマス」は自然の恵みに感謝することばですが、同時にそれを食べ物として作ってくださった人々の温かい心をいただくという意味でもあるのです。

近年スーパーやコンビニで食べ物の売れ残りが多量にでき、廃棄されるといって『食品ロス』が問題となつています。社会環境や人々の価値観が変わり、生活様式も以前より大きく変化していますが、どのような社会になっても自然の恵みや食物を作っている人々に感謝して「イタダキマス」という本質を忘れてはならないと思います。

(参考)

『五観』とは

- 一、この食事がどのようにしてできたかを考え、食事が調うまでの多くの人の労力に感謝します。
- 二、自分の行いが、食事を頂くに値するものか反省します。
- 三、心を正しく保ち、誤った行いを避けるために貪(むさぼる)などの誤った心を持たないことを誓います。
- 四、食とは良薬なのであり、身体を養い正しい健康を得るために頂くのです。
- 五、今この食事を頂くのは、この道を成し遂げるためです。



餘慶寺からのお知らせ

薬師縁日(於 薬師堂)

毎月8日 午前10時～
護摩祈禱をしています。ご祈禱のお申し込みは随時納経所で受け付けています。

観音縁日(於 本堂)

毎月18日 午前8時～
みんなで観音経をあげます。お経本は本堂にありますので、お気軽にお詣りください。

餘慶寺境内紹介 『南参道自動車道』

山裾の「門前」を通る県道二二六号線から上寺山へ登る道は、山頂まで約800mの道すじで、現在瀬戸内市道に認定されていますが、昔から餘慶寺や豊原北島神社への参拝道の一つでありました。参道の入口である「門前」(旧邑久郡豊村門前)は、その地名が示すように餘慶寺の表参道の口にあたり、上寺に対する下寺が、この集落にあつたとの伝承が残されています。寺伝によれば、当時は上寺も下寺も別山ではなく、すべてが餘慶寺の伽藍のひとつであったと考えられていました。そしてこの参道は、上寺と下寺との連絡道でもあり、境内の一部として認識されていたようでありませぬ。

近年になり終戦から六年後、昭和二十六年発行の『今城村史』上寺山略図には、表新参道として「自動車通行可能」の表記が見られます。これは本来の南参道を、自動車社会の到来により道はばを広げ、時代に適応した参拝道に整備し直したものであります。そしてその後、上寺山周辺が宅地開発され、今や近隣住民の生活道路として機能していますが、観光バスや自家用車で参拝に訪れる方々の主要な参道としても利用されています。

直近では、登り口や道中に石組みや案内看板が設置され、森林整備なども含め、山頂境内との一体化に努めています。



毎月第二日曜日午後二時より阿弥陀堂にて納骨堂説明会を行っています。

よけいじ寺子屋だより

会場 餘慶寺会館(十四時～)

寺子屋写真館



今後の予定

☆お葬式

講師 定光院住職 西野祐誠 師
十二月十四日(土)

☆落語講演

講師 岡山大学落語研究会
一月十九日(日)

☆弁天様のはなし

講師 吉祥院住職 大石恵海 師
一月二十六日(日)

☆曆にまつわる仏教の話

講師 本乗院住職 小林周伸 師
二月一日(土)

☆住職法話

講師 常楽寺副住職 長谷川裕展 師
二月二十四日(月祝)

☆仏塔の話

講師 明王院住職 岡本昌幸 師
三月七日(土)

※ごなたでも聴講可能です。(無料)
お誘い合わせのうえ、
ご参加ください。



編集後記

朝の冷えこみが厳しくなつてそろそろコタツとストーブを用意しようかなと考えてます編集の祐聖です。



みなさんはハロウィンをご存知でしょうか、よくカボチャに穴をあけて飾ったり、子ども達がオバケや吸血鬼などの恰好をして近所の家を回す(Trick or Treat) (いたずらかおもてなし)かと大人達に追つてお菓子をもらったりとなかなか普段の日常では見られないような行事です。もともとは秋の収穫を祝いつつ魔を払うという宗教行事でもあったみたいで、一回お寺でもやってみたいと思ひ今年はお菓子をたくさん用意して上寺の子ども達とハロウィンをしました！みなさんも年末年始にはクリスマスやお正月と様々な行事がありますので、是非参加してみたいでしょうか？

新年の各種授与品は回廊にて！ 初詣の際はお立ち寄りください。

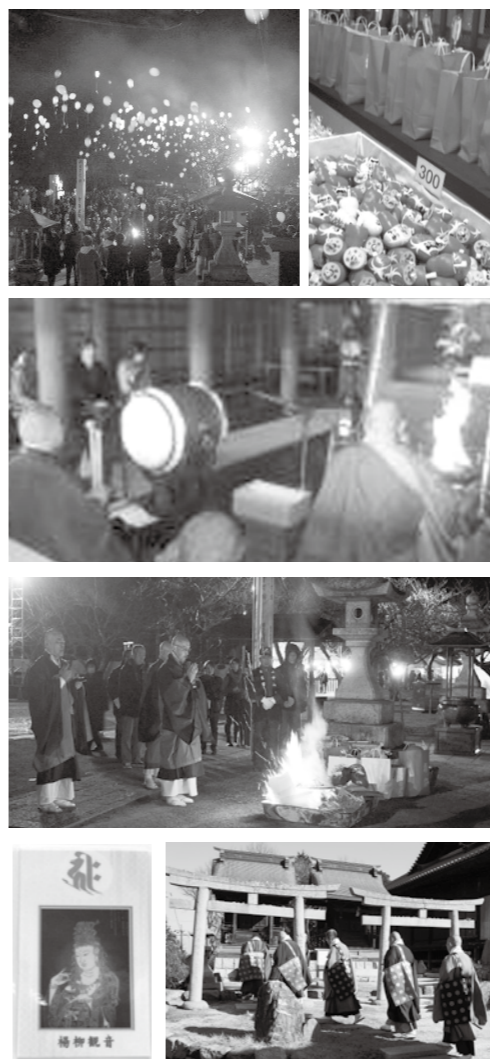
第二十回上寺山両詣りライトアップ

豊原北島神社と餘慶寺が隣接する上寺山では、行く年と来る年に願いを込めて、神と仏にお詣りができ、両方のおかげをいただけることから「両詣り」と名付けていろいろな行事を実施しています。

餘慶寺では古いお札のお焚き上げ、除夜の鐘撞き、八角堂での楊漙頂（お清め）、薬師堂での護摩祈禱などがつとめられます。特に新年が厄年に当たる方や、本命星が厄運の方（三頁下段参照）は、護摩祈禱での厄除けや方位除けをおすすめいたします。

今年もカウントダウンイベントとして願い事を書いた白い風船を夜空へ飛ばします。あたたかい無料接待やフリーマーケットの年越しそばなども用意し、皆様のお詣りをお待ちしております。詳しくは、配布しておりますチラシをご覧ください。

年末年始、上寺山へ是非ともお詣りください。



餘慶寺寺宝展のご報告

令和元年十月十三日（日）、第十七回目の餘慶寺寺宝展が開催されました。当日は天気も良く、両界曼荼羅図をはじめとする多くの寺宝を一目見ようと多くの参拝客が訪れました。

当日は境内にてあらいなおこ氏、井川ユミコ氏によるハーモニカとアコーディオンの奉納ミニコンサートや腕輪念珠作りの体験コーナーまた特別講演会として就実大学名誉教授土井通弘氏による講演もあり、多くの方が聴講にいられていました。

また、今城コミュニケーションによる各種出店や寺庭婦人による「もみじカフェ」なども行われ参拝いただいた方にご利用いただけたかと思えます。

末筆になりますが、開催にご尽力いただきました方々に改めて御礼申し上げます。



薬師堂からのお知らせ

薬師堂の護摩祈禱

十二月三十一日（火） 二十一時～翌一時半
 一月一日（水）～三日（金） 九時～十六時

年末年始の両詣りの際に厳修します。

護摩祈禱では、皆様の煩惱を焼き浄め、厄災を消除します。厄除け・方位除け・家内安全などのご祈禱をいたします。お申し込みは納経所・山内各院へお願いします。

両詣りの際には、薬師堂にて受け付けております。

「方位除け」のご祈禱

「方位除け」は人が生まれながらに持っている本命星が、その年にどの方向に位置しているかでの年の吉凶を占うものです。

今回の両詣りからご祈禱をお受けいただけます。下図をご確認いただき、「八方ふさがり」「表鬼門」「困難宮」「裏鬼門」の年齢に当たる方は年回りが良くなるように注意しなければならぬため「方位除け」のご祈禱をおすすめします。

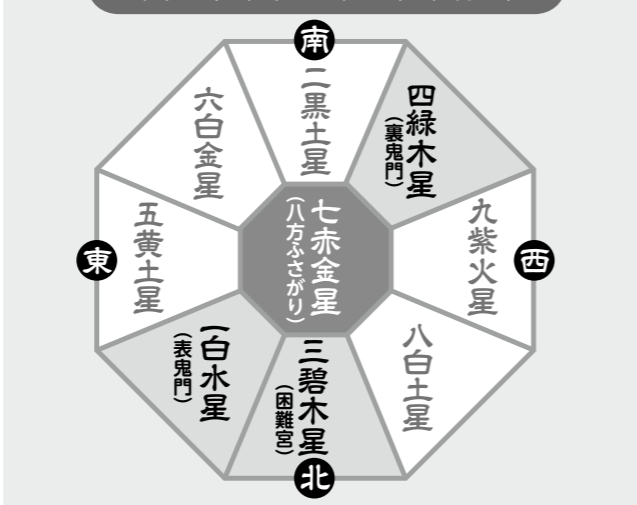
詳しくは、別紙「楊漙頂と護摩祈禱のご案内」ならびに「天台こよみ」をご覧ください。一年の平穏無事・運氣上昇をお祈りしましょう。



令和2年方位除け一覧表

中央(八方ふさがり)	北東(表鬼門)	北(困難宮)	南西(裏鬼門)
七赤金星	一白水星	三碧木星	四緑木星
昭和5年生	昭和11年生	昭和9年生	昭和8年生
昭和14年生	昭和20年生	昭和18年生	昭和17年生
昭和23年生	昭和29年生	昭和27年生	昭和26年生
昭和32年生	昭和38年生	昭和36年生	昭和35年生
昭和41年生	昭和47年生	昭和45年生	昭和44年生
昭和50年生	昭和56年生	昭和54年生	昭和53年生
昭和59年生	平成2年生	昭和63年生	昭和62年生
平成5年生	平成11年生	平成9年生	平成8年生
平成14年生	平成20年生	平成18年生	平成17年生
平成23年生	平成29年生	平成27年生	平成26年生
令和2年生			

令和2年 本命星方位図(方位除け)



令和2年厄年一覧

男性			女性		
前厄	本厄	後厄	前厄	本厄	後厄
24歳 平成9年生	25歳 平成8年生	26歳 平成7年生	18歳 平成15年生	19歳 平成14年生	20歳 平成13年生
41歳 昭和55年生	42歳 昭和54年生	43歳 昭和53年生	32歳 平成元年生	33歳 昭和63年生	34歳 昭和62年生
60歳 昭和36年生	61歳 昭和35年生	62歳 昭和34年生	36歳 昭和60年生	37歳 昭和59年生	38歳 昭和58年生
※歳は男女ともかぞえ歳です。 厄除けのご祈禱をお申し込みください。			60歳 昭和36年生	61歳 昭和35年生	62歳 昭和34年生

古いお札、だるま、お守りをお焚き上げいたします。年末になりましたら本堂へお持ちください